**（2015年6月2２日、月曜日、吉田受信）**

**吉田章宏先生**

**鹿児島純心女子大学の石井宏祐と申します。メールでご挨拶を申し上げる非礼をお許し下さい。　吉田先生の御著書「絵と文で楽しく学ぶ大人と子どもの現象學」を小学校3年生の8歳の息子と拝読させていただいたのですが、様々なことが経験できたため、それらを興奮して藤田先生にお話しさせていただいていたところ、このような機会をご提案いただきました。　以下の手紙は、息子とふたりでしたためました。息子の手紙は、息子が感じたり考えたりしたことの中で、吉田先生にお伝えしたいと言ったことをまとめたものです。息子のチェックも厳しく入っております。　私の手紙は、なかなかできない経験をさせていただいたことについて、その内容と感謝の気持ちを綴りました。御多忙の折と存じます。長文失礼致します。**

**ーーーーーーーーーーーーーー**

**はじめまして。石井紡（つむぐ）です。**

**まず、はじめて立場というものがあるのを知りました。見え方によって、立場が変わるのを知りました。それから、世の中には疑問がいっぱいあることを知りました。**

**平和になったら争いとかなくなるから、普通に幸せのまま暮らせるということがあるだろうけど、その逆で、争いとかがないから、つまらなくなることもあるだろうと思います。戦争をしないで、とにかく今のままでいいと思います。争いも少しはあったほうがいい。人生がつまらなくなると思います。今は、戦争はないけど、争いはあるから、今のままでいいと僕は思います。どんな争いがいいかは、子どもだから分かりません。そこまで争いの立場には立てないので分かりません。でも、きょうだいげんかより上でいじめより下の争いだと思います。ライバルみたいな感じです。**

**平和はよく考えていたけど、いじめは実際にいっぱいされていたので、考えたことはありませんでした。保育園のときはいっぱい考えていました。今でもいじめをなんでするのかと考えることがあります。いじめがどんなふうに面白いんだよ、と。いじめに何の意味があるんだろうと。本を読んで、いじめをしている人は、面白がっているんだ、と分かりました。**

**本の感想は表現するのが難しいです。面白いっていう感じではなく、楽しかったです。あの本を読んだら、憎しみがなしになったような気がしました。今は読んでいないので、憎しみがありになったけど、読んでいる時はなしになったような気がしました。**

**メールができてうれしいです。**

**ーーーーーーーーーーーーーー**

**父の宏祐です。**

**この度、息子と一緒に、御著書「絵と文で楽しく学ぶ大人と子どもの現象學」を拝読し、息子の知的好奇心が刺激され、様々な反応が生じていく様子に、私自身もまた大いに刺激され、かつてない経験をさせていただいたことに感謝を申し上げたく、また僭越ながらその経験をお伝えしたく、メールをさせていただきました。**

**私は、鹿児島純心女子大学で臨床心理学の教員をしておりますが、藤田千鶴子先生から質的研究の話をうかがう機会をたくさんいただき、またありがたいことに教員として多くの支えをいただいている者です。「絵と文で楽しく学ぶ大人と子どもの現象學」が出版されることも、出版前に藤田先生からご紹介いただいており、小学3年生の長男と読みたいと思い、とても楽しみにしていました。長男は、この本を読み終わった時、「立場のことを知った。立場にはいろいろあることを知った。」と言っており、また、「などなど」という言葉が気に入り、その後よく使うようになりました。私が「などなど、という言葉は、いろいろな立場がまだ他にもあることを伝えるための、大事な言葉なのだろうね。」と言うと、「だよ。」と即答し、大切なことを簡単に理解する子どもの柔軟さを頼もしく感じました。**

**読み終わった日の夜は特に興奮しており、先生の短歌に触発されたのか、独り言で「立場立場というのも立場」「本を読んで少し成長したという僕の立場などなど」「立場という言葉の大切さを知ったのもまた僕の立場」とつぶやいていて、父親としては、８歳の息子が現象学に触発されて知的興奮をおぼえている様子に接することができ、ジーンとくるといいますか、温かな楽しい気持ちになりました。また、寝かしつける時間も興奮しており、夜も更けておりましたので、私が寝たふりをしていましたら、長男が私の耳元で「早く仕事がしたい、寝たつもりになろう、などなど。お父さんの立場。」とささやくものですから、思わず吹き出し、寝たふりが失敗に終わってしまいました。**

**毎日少しずつ読み聞かせ、1週間ほどかけて楽しく学ばせていただきましたが、いじめに関する部分では、長男だけでなく、４歳の次男も加わって、話が展開しました。長男は現在小学３年生ですが、保育園の頃、友人にからかわれることも多く、今でも当時を思い出し、悲しくなることがしばしばです。その長男にとって、「君は今、これからの君の一生にとって、大事なことを学んでいるんだ」という言葉は、とても印象深い言葉だったようです。この箇所を読み聞かせていた時、自然と長男は保育園の頃の話をし、それを聞いていた次男が（現在保育園に通っているのですが）、自分も保育園で嫌なことを言われることがあるということを話しだしたのです。長男に比べるとずっと楽しく保育園生活を過ごしている次男ですが、やはりいろいろあるのだと思います。この時、長男が次男に、「人生にとって大事なことを学んでいるんだから」と言って聞かせており、次男も心なしか神妙な面持ちで、これまで繰り返し語られてきた長男のつらい記憶のエピソードが別様に語られた気がいたしました。感謝申し上げます。**

**長男の様子を見ていて興味深かったのは、142ページの現象学の説明部分を読み終えた時でした。この部分が息子には難しかったのだと思うのですが、この直後に「おっと、難しい言葉がどんどん出てきてしまいました。許して下さいね。」とあり、それを読んだ時、にっこりしたのです。なぜうれしそうなのか聞いてみると、「この本を書いた人は子どもの立場が分かっている。だから分かりやすいんだよ。子どもに難しい言葉が分かっていて、難しい言葉がない。だから分かりやすい。」と答えが返ってきて、生意気にも先生の立場に身を置いての解説が面白く感じられました。**

**はじめ、現象学を子どもと学ぶということが、楽しみでありながらも、あまりイメージできませんでしたが、読み始めると、先生からの問いに対しての息子の回答にハッとしたり、問うことの大切さをご説明いただく箇所で、息子が「僕は学校の勉強は苦手だけど、問うことだけは得意だ。」と話し始めたりなど、大変楽しかったです。学ぶことの楽しさは私なりに知っていますが、もっと、楽しく楽しむといいますか、そういったことを思い出した気がいたしました。**

**親子で読んで良かったです。ありがとうございました。**

**鹿児島純心女子大学　大学院人間科学研究科心理臨床学専攻　国際人間学部こども学科**

 **石井宏祐　川内キャンパス（研究室）　〒895-0011 鹿児島県薩摩川内市天辰町2365番地**

**TEL : 0996-23-5311 / FAX : 0996-23-5030（代表）**